



東京佼成ウインドオーケストラ

主催

佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ

後援

一般社団法人全日本吹奏楽連盟

東京都吹奏楽連盟

公益社団法人日本吹奏楽指導者協会

公益財団法人日本音楽教育文化振興会

一般社団法人日本管打・吹奏楽学会

一般社団法人日本吹奏楽普及協会

日本コロムビア株式会社

株式会社テレビマンユニオン

<https://www.tkwo.jp/>



2022.3.22 Tue  
at Tokyo Metropolitan Theatre  
Concert Hall

# 特別演奏会

3.22

tue

開演19:00

東京芸術劇場 コンサートホール

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1TEL:03-5391-2111(代表)



# message メッセージ

## トーマス・サンデルリンク/Thomas Sanderling (特別客演指揮者)

親愛なる東京佼成ウインドオーケストラの皆様へ！  
私は、素晴らしい東京佼成ウインドオーケストラとの輝かしいコンサートの思い出があります。東京佼成ウインドオーケストラは最高の品質と可能性を兼ね備える楽団です。中でも、共に録音しリリースしたストラヴィンスキイの「管楽器のための交響曲」のCDは、国際的に高い評価を受けています。今後の東京佼成ウインドオーケストラの成功、そしてそれにふさわしい素晴らしい未来を願っています。

これからも一緒に音楽を作りていきましょう。  
特別客演指揮者トーマス・サンデルリンク

Dear Members and friends of the TKWO !  
I have wonderful memories of great concerts with the outstanding TKWO.  
It is an orchestra of highest quality and potential. Our CD with Stravinsky's Symphony for Winds received high praises internationally.  
I wish a successful and more than well deserved great future for the TKWO! Look forward to making music together.

Sincerely Yours  
Thomas Sanderling



## 汐澤安彦 (初代常任指揮者)

この度、貴団におかれましては「一般社団法人・東京佼成ウインドオーケストラ」と名称を改められ、新しい道を歩まれるとの御由、心よりお慶び申し上げます。思えば、今から約半世紀位前だったでしょうか。当時、杉並区和田の一隅にあった畠敷の大広間で合奏していた頃が懐かしく思い出されます。と申しますと、自分の歳がバレてしまいますが、私がまだ“飯吉靖彦”…昔の名前で出ていた頃…のことでした。やがて日本の吹奏楽は飛躍的な進歩を遂げる時代を迎えます。ミリタリーバンドからシンフォニックバンドへの変遷など、この半世紀に於ける吹奏楽界の変化は真に著しく、その間、技術的には勿論のこと、何よりも音楽的に充実してきた事が特に注目されます。そしてそこには常に「東京佼成ウインドオーケストラ」の名が存在し、大きな原動力となっていたのです。いつも時代の先頭に立ち、未来を切り拓いて来られた、貴団のご努力に対し、深く敬意の念を表する次第です。今日、文字通り日本、そして世界を代表するバンドとしてゆるぎない地位を築かれた、この素晴らしい東京佼成ウインドオーケストラの皆様に心からの拍手をお贈りしたいと思います。さらに、貴団が世に数多く存在するバンドの指標となるべく姿を常に保ち続ける時、日本の吹奏楽の未来は明るく希望に満ちたものが約束されるでしょう。吹奏楽は何と言ってもジャンルの広い処が強みです。どうかこれからもなお一層、裾野を広げられ、たくさんの人々に音楽の歓びを与えてくださいますことを願ってやみません。この度は誠におめでとうございます。東京佼成ウインドオーケストラの今後の更なるご活躍を祈念いたします。



## ダグラス・ボストック/Douglas Bostock (元常任指揮者/元首席客演指揮者)

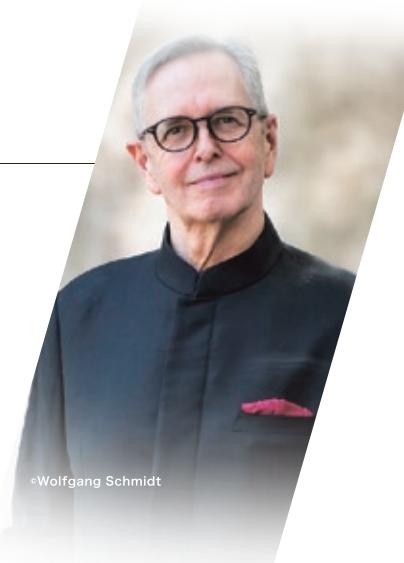
今までの、そしてこれからTKWOへ～新たなる音楽の旅路に～  
東京佼成ウインドオーケストラが、その組織と運営に新たな体制で臨まれることに心より祝意を表します。TKWOは、その素晴らしい音楽家たちの卓越した演奏技術と経験、そして情熱によって、これからもさらなる飛躍を遂げていくものと確信しています。そして、豊富な知識と熱意に満ちたマネージメント・チームは、どのような未知の領域であろうと、今後もしっかりと楽団を先導して行くことでしょう。行く手にいかなる試練があろうと、東京佼成ウインドオーケストラはあらゆる困難を乗り越え、ウインド・ミュージックの最高峰として、さらにはそれ以上の存在として、世界で輝き続けていくに違いありません。TKWOの演奏家の皆さま、そしてスタッフの皆さま、皆さまのご健勝をお祈り申し上げるとともに、音楽を通じた私たちの新たな出会い、そして多くの親愛なる友人との再会を心待ちにしています。この移行期にふさわしいと思われる格言をもって、メッセージの結びといたします。

芸術は長く人生は短し  
2022年2月 ダグラス・ボストック

### Old and New TKWO - A Musical Transition

I congratulate Tokyo Kosei Wind Orchestra from the bottom of my heart on its new organizational and administrative form. I am confident that TKWO will continue to flourish, thanks not least to the wonderful musicians with their great expertise, experience, and passion. The dedicated management team, with its vast knowledge and enthusiasm will guide the orchestra through the yet unknown waters in the coming years. Great challenges lay ahead, but there is no doubt that Tokyo Kosei Wind Orchestra will overcome all obstacles and continue to shine brightly in the world as the pinnacle of artistry in wind music and beyond. I wish TKWO, its musicians and staff all the very best for the future and look forward to our next musical encounter as well as the personal reunion with many dear friends. May I close with a proverb, which seems fitting in this period of transition:

芸術は長く人生は短し  
.Douglas Bostock, February 2022



©Wolfgang Schmidt

## ポール・メイエ/Paul Meyer (元首席指揮者)

親愛なる東京佼成ウインドオーケストラの仲間達へ  
東京佼成ウインドオーケストラは、ただ最高のウインドオーケストラというだけではなく、間違いなく世界で最高のオーケストラのひとつです。すべての楽団員が熱心で、準備万端、真面目で向上心があり、音楽家精神に溢れていて、唯一無二の演奏会を創り上げるのです！近い将来、再び一緒に演奏できる日が待ち遠しいです。今後のご活躍、ご成功を祈っています。

ポール・メイエ

To the Kosei orchestra!

The Kosei wind orchestra is not simply the best wind orchestra, but one the best orchestra in the world! Every musician is so dedicated, prepared, serious, motivated and full of musician ship that all the concerts they give are unique! I can't wait to be back with them and I wish you every success for the future.

Paul Meyer



# program プログラム

司会は大井剛史(正指揮者)が務めます。

- ◆ 「法華経からの三つの啓示」より第3楽章「平和の悦び」／A.リード(指揮:山下一史)[約8分]
- ◆ ファンファーレとアレグロ／C.ウィリアムズ(指揮:原田慶太楼)[約6分]
- ◆ 「BIRDS アルト・サクソフォーンとバンドの為の協奏曲」より第2楽章「シーガル」  
真島俊夫(指揮:山下一史/サクソフォン:須川展也)[約6分]
- ◆ 吹奏楽のための「深層の祭」／三善 晃(指揮:飯森範親)[約4分]
- ◆ 風紋(原典版)／保科 洋(指揮:保科 洋)[約7分半]

休憩 Intermission [20分]

## ◆ Lassus Trombone

H.フィルモア／藤野浩一編(指揮:藤野浩一／トロンボーン:今村岳志／石村源海／佐藤敬一朗)[約2分半]

## ◆ Siciliano for Solo Soprano Saxophone and Wind Orchestra

J.S.バッハ／藤野浩一編(指揮:藤野浩一／サクソフォン:田中靖人)[約3分半]

## ◆ Mr.Toad's Wild Ride／G.アダムス／N.ミロ／藤野浩一編(指揮:藤野浩一)[約5分半]

## ◆ 「三つのジャポニスム」より「鶴が舞う」／真島俊夫(指揮:飯森範親)[約7分]

## ◆ 「吹奏楽のための交響曲第3番」より第3楽章／保科 洋(指揮:大井剛史)[約10分]



- ・本コンサートは、会場の観客の皆様を撮影する場合があること、および収録された映像がインターネット、DVDなど各種媒体で公開・販売されることを予めご了承下さい。
- ・ホール内での、許可のないビデオ・写真撮影、および携帯電話・スマートフォンでの撮影はご遠慮ください。
- ・携帯電話・時計のアラームなど音の出る電子機器は電源をお切りください。
- ・演奏中のプログラムをめくる音、お客様同士での会話など音を発する行為は他のお客様のご迷惑となることがありますのでご配慮下さい。

東京佼成ウインドオーケストラでは、政府・各自治体およびホールの方針に基づき、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で、本公演を開催いたします。詳細につきましては、当団オフィシャルサイト掲載の《【重要】感染症予防対策についての取り組みとお願い》をご覧ください。

本公演に関する  
アンケートへ  
ご協力ください



# Conductor 指揮者

## 大井剛史(正指揮者)

1974年生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。若杉弘、岩城宏之、レヴァイン、マズア、ジェルメッティ、カラブチエフスキイの各氏から指導を受ける。東京藝術大学指揮科を卒業後、1999年同大学院指揮専攻修了。1996年安宅賞受賞。2000～01年、仙台フィルハーモニー管弦楽団の副指揮者として研鑽を積み、2007～09年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。2008年アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクールで第2位入賞。2009～16年までニューフィルハーモニー・オーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～13年山形交響楽団指揮者、2013～17年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。このほかほんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーと誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。新進作曲家の現代作品や、吹奏楽、オペラ、バレエ、など幅広い分野で意欲的に活動している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。



©K.Miura



## 飯森範親(首席客演指揮者)

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリン、ミュンヘンで研鑽を積み、これまでにフランクフルト放送響、ケルン放送響、チェコ・フィル、モスクワ放送響等に客演。01年、ドイツ・ヴュルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督(GMD)に着任し、日本ツアーや成功に導いた。国内では94年以来、東京交響楽団と密接な関係を続け、現在は特別客演指揮者。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞、07年より山形交響楽団音楽監督、2019年シーズンより同楽団芸術総監督に就任。2014年シーズンより日本センチュリー交響楽団首席指揮者。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2021年4月より東京ニューシティ管弦楽団ミュージック・アドバイザー(2022年4月よりパシフィック フィルハーモニア東京に改称、音楽監督に就任)。

オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>



## 藤野浩一(ポップス・ディレクター)

東京音楽大学音楽学部器楽科卒業。在学中トランペットを金石幸夫氏に、和声学を池辺晋一郎氏と三枝成章氏に、作曲を細矢禊氏にそれぞれ師事。在学中よりアレンジャーの道を目指す。卒業後本格的に作編曲家・キーボード奏者としてプロ活動を始める。1982年よりNHKレッセーギヤング、ザッツミュージック、紅白歌合戦など数多くの音楽番組のレギュラースタッフとして作編曲活動をする。また音楽監督として全ての編曲を手がけた「青春のポップス」は、名実共にNHKナンバーワン音楽番組となった。現在は「映画音楽は素晴らしい!」の音楽監督を務めている。2日間で54,000人を動員した水樹奈々コンサートや、布施明、渡邉真知子、藤澤ノリマサとのオーケストラ・レコーディング等、音楽監督としてビッグネームからの信頼も厚い。2020年の紅白歌合戦では東京フィルを指揮した。



## 保科 洋

1960年、東京芸術大学作曲科卒、卒業作品にてその年の第29回毎日音楽コンクール作曲部門(管弦楽)で第1位を受賞する。以後、本格的に作曲活動を始めるかたわら、東京音楽大学、愛知県立芸術大学、兵庫教育大学で教鞭をとり、2001年3月に兵庫教育大学を定年退職する。作品は管弦楽曲、オペラ、吹奏楽曲、室内楽曲、合唱曲、ミニュージカルなど幅広いが、特に吹奏楽曲では日本を代表する作曲家の一人として知られ、作品のいくつかはアメリカでも課題曲に登録されるなど世界各国で演奏されている。特に2008年11月にイタリーで開催された国際ホルンコンクールにおいて本選の必須課題曲に「巫女の舞」(ホルン協奏曲)が選ばれ、世界各国のホルン奏者によって熱演された。指揮活動も「フィルハーモニックウインズ浜松」や「シエナ・ウインドオーケストラ」はじめ幅広く行っているが、特に、アマチュアを対象とした指導法はそのユニークな演奏解釈理論とともに定評があり、岡山大学交響楽団の常任指揮者を50年以上もの長きに亘って続け、日本有数の大学オーケストラに育て上げるかたわら、客演指揮者としても全国各地のオーケストラや吹奏楽団で活躍している。2017年からは、保科洋指揮法クリニックを兵庫県加東市で主催し、全国のスクールバンドや市民音楽団体指揮者にアマチュア演奏団体を指揮するための指揮法の指導を行っている。このような長年にわたる教育・指導活動が評価されて、平成27年度秋の叙勲において「瑞宝中綬章」が授与された。また、平成28年度春には兵庫県文化功労賞を授与された。兵庫教育大学名誉教授、浜松アクト音楽院吹奏楽部門音楽監督、フィルハーモニックウインズ浜松音楽監督

## 山下一史

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年ニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。1985年12月からカラヤンの亡くなるまで彼のアシスタントを務めた。その後シンボリ交響楽団首席客演指揮者を務めた。日本国内では1988年NHK交響楽団を指揮してデビュー、オーケストラ・アンサンブル金沢ブリンクス・ゲスト・コンダクター、九州交響楽団常任指揮者を歴任。また、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者を務め、新国立劇場での松村禎三『沈黙』公演は、東京の音楽界にも衝撃を与えた。現在同団名譽指揮者。2006年4月からは仙台フィルハーモニー管弦楽団より指揮者として迎えられ、CD制作など積極的な活動を展開。2009年4月から2012年3月まで同団の正指揮者。現在、オペラ、オーケストラの両面において着実な成果を積み上げている指揮者として、ますます注目を浴びている。千葉交響楽団音楽監督、東京藝術大学音楽学部指揮科教授。2022年4月より愛知室内オーケストラ音楽監督、大阪交響楽団常任指揮者に就任。

## 原田 慶太樓

現在、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを中心に目覚しい活躍を続いている期待の俊英。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンから、アメリカジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に就任。オペラ指揮者としても実績が多く、アリゾナ・オペラやノースカロライナ・オペラに定期的に出演、シンシナティ・オペラ、ブルガリア国立歌劇場でも活躍。10年タンブルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、13年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、14・15・16・20・21年米国ショルティ財団キャリア支援賞受賞。09年ロリン・マゼール主催の音楽祭「キャッソルトン・フェスティバル」にマゼール本人の招待を受けて参加。11年には芸術監督ファビオ・ルイジの招聘によりPMFにも参加。85年東京生まれ。インターロッケン芸術高校音楽科において、指揮をF.フェネルに師事。オーケストラやオペラのほか、室内楽、バレエ、ポップスやジャズ、そして教育的プログラムにも積極的に携わっている。2021年4月東京交響楽団正指揮者に就任。第29回(2021年度)渡邊曉雄音楽基金音楽賞受賞。第20回斎藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

## Solist ソリスト

### 須川展也(元コンサートマスター)

日本が世界に誇るクラシカル・サクソフォン奏者。長きにわたり、現代を代表する作曲家への委嘱を継続し、クラシカル・サクソフォンのレパートリーを開拓し続けています。国内外の著名オーケストラと多数共演。30ヶ国以上で公演やマスタークラスを行う。東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール、第1回日本管打楽器コンクール最高位受賞。02年NHK連続テレビ小説「さくら」テーマ曲演奏。最新CDは自身初の無伴奏作品となる「バッハ・シーケンス」(R2文化庁芸術祭優秀賞)。東京佼成ウインドオーケストラ・コンサートマスター(89-10年)、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者(07-20年)を歴任。トルヴェール・クワルテットのメンバー、東京藝大招聘教授、京都市立芸大客員教授。

### 田中靖人(コンサートマスター)

国立音楽大学在学中、第1回日本管打楽器コンクール第2位、第4回日本管打楽器コンクール第1位を受賞。1990年東京文化会館でデビューリサイタルを開催。以来、国内外でリサイタルなど幅広い活動を行っている。東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団など、ソリストとしてオーケストラとの共演も多数。2000年より(財)地域創造主催の「公共ホール活性化事業」のアーティストとして、リサイタル、アウトリーチコンサートも意欲的に行っている。2003年和歌山県より「きのくに芸術新人賞」を受賞。ソロ・アルバムに、1991年「管楽器ソロ曲集: サクソフォン」(日本コロムビア)、1995年「ラブソディ」(EMI music japan)、1997年「サクソフォニア」(EMI music japan)、2003年「ガーシュインカクテル」(伎成出版社)、2012年「モリコネ バラダイス」(EMI music japan)をリリース。また、サクソフォーン四重奏団トルヴェール・クワルテットのメンバーとして活躍し、これまでに10枚を超えるアルバムをリリース。2001年文化庁芸術祭レコード部門「大賞」を受賞。東京佼成ウインドオーケストラコンサートマスター。国立音楽大学、愛知県立芸術大学各講師。昭和音楽大学、札幌大谷大学、名古屋音楽大学各客員教授。

### 今村岳志

宮崎県三股町出身。都城西高等学校を経て、2010年東京芸術大学を卒業。第29回日本管打楽器コンクールトロンボーン部門入選。2011年~2014年、《サイトウ・キネン・フェスティバル松本》でストラヴィン斯基作曲「兵士の物語」に出演。《別府アルゲリッチ音楽祭》《アクロスクラシックふえすた》などの音楽祭にも招かれている。自身が代表を務めるトワイライトトロンボーンカルテットでは、これまでに4枚のアルバムを発表。2014年香港で行われたSliderAsia Music Festivalでの招待演奏を行なうなど幅広く活動している。これまでにトロンボーンを秋山鴻市、栗田雅勝、吉川武典の各氏に師事。ヨルゲン・ファン・ライエン、イアン・パウスフィールド各氏のマスタークラスを受講。現在、東京佼成ウインドオーケストラテナートロンボーン奏者。

### 石村源海

東京都出身。9歳よりトロンボーンをはじめる。八王子学園八王子高等学校を経て、東京藝術大学を卒業。学内にて同声会賞、アカンサス音楽賞を受賞。これまでにトロンボーンを荻野昇、鳥塚心輔、古賀慎治、石川浩、黒金寛行の各氏に師事。室内楽を日高剛、柄本浩規、古賀慎治の各氏に師事。第22回日本トロンボーンコンペティション 独奏部門 高校生以下の部 第1位。同声会新人演奏会 2020に出演。現在、東京佼成ウインドオーケストラトロンボーン奏者。

### 佐藤敬一朗

宮城県利府町出身。宮城県立利府高等学校を経て、2011年東京藝術大学を卒業。トロンボーンを秋山鴻市、石川浩、山本浩一郎の各氏に師事。第12回日本トロンボーンコンペティション第3位。2009年小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトX参加。2013年5月東京佼成ウインドオーケストラ東北ツアーやソリストを務める。トワイライト・トロンボーンカルテット、トロンボーンアンサンブル スライドジャパンメンバー、コントラバストロンボーンデュオ『爆奏! デコントラ野郎たち』Youtubeチャンネル運営。現在、東京佼成ウインドオーケストラバストロンボーン奏者。

# Riccardo notes

## 曲目解説 富樫鉄火（音楽ライター）

※本文中の「東京佼成ウインドオーケストラ」は「TKWO」と略しました。

TKWOは、4月から、運営母体・立正佼成会から独立し、一般社団法人として“民営化”される。

1960(昭和35)年5月3日、たった「15名」の有志で結成されて以来、最大の改革であり難所といつても過言ではないだろう。

だが、かつて、指揮者の岩城宏之(1932~2006)がTKWOを初めて指揮した際、「レベルの高さに驚嘆した。日本に、このような世界一の演奏団体が存在していたのを知らなかった不明を、恥ずかしいと思った」とまで述べた、その響きは、おそらく今後も継続していくにちがいない。

なぜなら、TKWOの60余年の道のりには、常に、素晴らしい作曲家、指揮者、演奏者、楽曲が寄り添っていた。これらの“財産”があるかぎり、TKWOはきっと難所も乗り越えていくはずだ。

本日は、それらを一挙に開封し、回想し、再現する、画期的なコンサートである。TKWOの新たな第一歩を、ここにいるすべてのひとたちで応援し、見守ろうではありませんか。

### ◆ファンファーレとアレグロ／C.ウィリアムズ（指揮：原田慶太樓）

日本の吹奏楽発展に多大な貢献を果たしたフレデリック・フェネル(1914~2004)は、第34回定期(1984年3月)で、正式にTKWO常任指揮者に就任した(その後、桂冠指揮者)。その日、第1曲目に演奏されたのが、本曲。つまり、常任指揮者としてのフェネルとTKWOの、記念すべき初共演曲である(その2年前に、一度、客演指揮者として招請されている)。

作曲者、クリフトン・ウィリアムズ(1923~1976)は、戦後、まだ“軍楽隊”的イメージが残っていた吹奏楽界に颯爽と登場し、新鮮な作風で人気となった。優秀な吹奏楽曲に授与されるオストワルド賞(現「スーザ/オストワルド賞」)の第1回(1956)を本曲で、第2回(1957)を《交響組曲》で受賞している。本曲は、ウィリアムズが注目を浴びた最初の曲。当時、世界中の吹奏楽関係者が、冒頭のファンファーレの響きに魅せられた。まさに、吹奏楽新時代を告げる幕開けであった。

なお、TKWOはかなり早い時期からウィリアムズを取り上げており、すでに第4回定期(1966年4月)で《交響組曲》を演奏している(秋山和慶指揮)。

本日の指揮者、原田慶太樓は、アメリカでの高校時代、吹奏楽部でフェネルの指導を受けたのがきっかけで指揮者になった。以後、フェネルを敬愛しつづけ、ついにTKWO第154回定期(2021年6月)に登壇、フェネルのレパートリーを見事な演奏で次々と披露し、大喝采を浴びている。本日は、再びフェネルゆかりの曲に挑む、期待のステージである。

### ◆「BIRDS アルト・サキソフォーンとバンドの為の協奏曲」より第2楽章「シーガル」 真島俊夫（指揮：山下一史／サクソфон：須川展也）

1995年、サクソフォン奏者、須川展也の委嘱により作曲・初演された、3楽章構成の協奏曲。I〈スワロー〉、II〈シーガル〉、III〈フェニックス〉と、鳥(BIRDS)がモチーフとなっている。本日演奏されるII〈シーガル〉(かもめ)は、すでに発表されていた、アルト・サクソフォンと弦楽のための同名曲をもとに改訂された楽章。作曲者・真島俊夫(1949~2016)は、「人が生きていくうえでの悲しみ、あるいは大切なさを描いた」と述べている。

真島は、このあとに登場する《三つのジャポニスム》をはじめとするオリジナル曲や編曲、また、「ニュー・サウンズ・イン・プラス」(NSB)などで、TKWOとはたいへん縁が深かった。特に1987年のNSBで発表された《宝島》(和泉宏隆作曲)は、シンフォニック・ジャズともいいうべき見事なアレンジで、吹奏楽ポップスの名曲アンドロードでも愛されている。

ソロの須川展也は、1988~2010年の22年間にわたってTKWOのコンサート・マスターをつとめた世界的なサクソフォン奏者。先述のフレデリック・フェネルと共に、TKWOの人気を定着させる牽引役でもあった。その後は、ヤマハ吹奏楽団の常任指揮者もつとめ、在任中、全日本吹奏楽コンクール／職場一般の部(全国大会)に8回出場、そのすべてで金賞を受賞している。

### ◆吹奏楽のための「深層の祭」／三善 晃（指揮：飯森範親）

1988年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲A(参考演奏＝フレデリック・フェネル指揮／TKWO)。パースのソロからはじまる意外な曲想で、たいへんな難曲。ランボオの散文詩集『地獄の季節』冒頭、「俺の生活は宴であった」(小林秀雄訳)がモチーフとなっている。アマチュア吹奏楽の世界に、いわゆる“現代音楽”が登場した、ほぼ先駆けでもあった。当初、「さすがに中学生には無理だろう」と思われたが、この年の全国大会・中学の部に出場した28団体中、なんと11団体が本曲を取り上げた。中学生が平然と“現代音楽”を演奏する光景に、“吹奏楽を変えた4分間”とまでいわれた。その後はオリジナル名曲として定着し、本曲を自由曲に選択してコンクールに出場する団体もあらわれた。

本曲は、三善晃(1933~2013)によって初めての吹奏楽曲(1972年の《札幌オリンピック・ファンファーレ》を除く)。多くの合唱曲でも知られる大家だが、このあと、2回目の課題曲《クロス・バイ マーチ》(1992年度)や、《スターズ・アトランピック'96》(1990)といった吹奏楽曲も書いている。《交響三章》《竹取物語》なども吹奏楽編曲で演奏されている。

指揮の飯森範親は、現在、TKWOの首席客演指揮者。定期への初登壇は第113回(2012年12月)。その熱くスピード感あふれる演奏で、定期のみならず地方公演でも大人気である。

## ◆風紋(原典版)／保科 洋 (指揮:保科 洋)

1987年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲A(参考音源=山岡重信指揮／TKWO)のオリジナル版。当時は課題曲としては長かったので「削りに削って」(保科)、発表された。その後、当初の全長版としてあらためて発表されたのが、本日演奏される「原典版」である。課題曲版が約5分半なのにに対し、原典版は約7分強。

本曲は、課題曲人気投票のような企画があると必ず1位になる。いまや、課題曲の枠を超えたオリジナル名曲として愛されている。曲名に特別な意味はないそうで、「強いて言えば、前半の曲想のイメージのサラサラした表情によってかもし出される紋様などのトータルした主観的印象」と、作曲者自身は述べている。いまでは当たり前の楽器「ウインド・チャイム」が本格的に使用された、ほぼ最初期の曲でもある(楽譜に写真入りで、どういう楽器かが解説されていた)。

作曲者にして本日の指揮者、保科洋(1936~)は、日本を代表する作曲家。管弦楽やオペラ、室内楽など幅広いジャンルを手がけているが、コンクール課題曲は、本曲も含めて計4曲手がけている。近年では『復興』(2010)が人気を呼んでいる。

## ◆Lassus Trombone H.フィルモア／藤野浩一編 (指揮:藤野浩一／トロンボーン:今村岳志／石村源海／佐藤敬一郎)

フレデリック・フェネルは、スクリーマー(サークス・マーチ)の名手、ヘンリー・フィルモア(1881~1956)が大好きで、《ローリング・サンダー》《サークス・ビー》《ヒズ・オナー》などを、トレードマークのように何度も演奏してきた。そのフィルモアが、元トロンボーン奏者だっただけあり、《トロンボーン・ファミリー》なるユニークな曲集を出している。すべて「トロンボーン家」の人名がタイトルで、本曲は、そのなかの1曲。3重奏で演奏されることが多く、グリッサンドが続出す。本日は、"TKWOトロンボーン家3兄弟"の共演。

指揮・編曲は、TKWOのポップス・ディレクター、藤野浩一。布施明、水樹奈々などのコンサートやアルバム、「NHK紅白歌合戦」などでも活躍するベテラン・アレンジャー、指揮者である。ここでも、原曲とはまったくちがう、アレンジの妙をお楽しみあれ。

## ◆Siciliano for Solo Soprano Saxophone and Wind Orchestra

J.S.バッハ／藤野浩一編 (指揮:藤野浩一／サクソフォン:田中靖人)

原曲は、バッハの《フルート・ソナタ第2番》変ホ長調BWV1031の第2楽章。ただし、近年では、大バッハの作曲ではなく、弟子か息子による偽作との説が有力。「シチリアーノ」とは、本来が、シチリア島に伝わる6拍子のゆったりした舞曲。本日は、ジャズ・ティストのアレンジで、ソプラノ・サクソフォンが演奏する。

ソロの田中靖人は、TKWOの現コンサート・マスター(2010年就任)。前任の須川展也を引き継ぎ、TKWOの顔として活躍をつづけている。中高時代からジャズが好きで、一時はプロのジャズ奏者への道も考えていたというので、本日はまさに会心の選曲。美しいソプラノ・サクソフォンの響きをご堪能ください。

## ◆Mr.Toad's Wild Ride／G.アダムス／N.ミロ／藤野浩一編 (指揮:藤野浩一)

アメリカのファンク・R&Bバンド、Tower of Power(1968年~現在も活動中)が、1991年に放ったインスト名曲(海外ディズニー・パークにある同名アトラクションとは別)。強烈なホーン・セクションと軽快なリズムが「Wild Ride(スリリング)にドライブ」する。実はこの曲、藤野浩一指揮／TKWOのポップス・コンサートでは大人気で、ついに本日、東京芸術劇場のステージを爆走することになった。初めて聴く方は、振り飛ばされないよう、ご注意を。

## ◆「三つのジャポニスム」よりⅠ「鶴が舞う」／真島俊夫 (指揮:飯森範親)

TKWOは、今までに50曲以上の委嘱作品を初演してきた。そのなかで、もっとも人気を呼び、プロからアマチュアまで、いまでも日本中で演奏されているのが、本曲。第68回定期(2001年4月)で、ダグラス・ポストックの指揮により初演された。

作曲者・真島俊夫は、ポストックの「日本しさをテーマにしてほしい」との要望に見事に応え、「西洋の視座・技法で日本を描く」ことに成功した。「TKWOのメンバーひとりひとりを思い浮かべながら、宛て書きのようにして作曲しました」と語っていただけあり、随所に高度な奏法が登場する。

全体は、Ⅰ〈鶴が舞う〉、Ⅱ〈雪の川〉、Ⅲ〈祭り〉の3楽章構成で、本日はⅠが演奏される。釧路湿原などに生息するタンチョウヅルの求愛の舞がモチーフ。打楽器に「鳥の羽音」なる珍しい指定があり、扇子や団扇などでバタバタと羽音を表現する。作曲者自身は「鰻の蒲焼を焼く時の要領で」と述べていた。なお本曲は、あまりの人気に、後日、作曲者自身によるコンクール向けの短縮版「コンポーザーズ・エディション」が出版されている。

首席客演指揮者・飯森範親による熱演で、じっくりお聴きください。

真島は、のちに、同様スタイルによる《鳳凰が舞う～印象:京都、石庭、金閣寺》(2005)、《富士山～北斎の版画に触発されて》(2014)を発表、通称「ジャポニスム3部作」を完成させており、TKWOは、そのすべてを定期で演奏している。

## ◆「吹奏楽のための交響曲第3番」より第3楽章／保科 洋 (指揮:大井剛史)

TKWOの創立60周年記念に委嘱され、新型コロナ禍がつづく第151回定期(2020年11月)で、大井剛史の指揮で初演された(ライヴCDあり)。その後の60周年記念ツアーでも、大阪、広島、福岡、札幌、山形、新潟で演奏された(開催順)。

本日は、全3楽章のうち、最終の第3楽章が演奏される。Presto energico(急速、エネルギー)に、力強くスピーディーにはじまる。作曲者は「その中に人生(不条理・不可思議なもの)へのさややかな抵抗をひそかに盛り込んだつもりです」と述べている。

曲は、中間部で立ち止まりかけるが、ふたたび激しい曲想に戻る。クライマックスでは、「保科ブシ」とでも呼びたくなる、あの独特の寂寥感に満ちた曲想が登場し、なにか充たされぬような思いに支配される。だが、それをソロ・クラリネットが冷静に押しとどめ、ラストは決して屈しようとはしない(抵抗)の響きで印象的に終わる。

先述の『風紋』でもおなじみ、作曲者・保科洋は、本曲の初演時、84歳だったが、まったく年齢を感じさせない力強い楽曲である。

指揮の大井剛史は、TKWO正指揮者(2014年1月就任)。幅広いレパートリーとの確な表現で、いまや日本の吹奏楽界をリードする指揮者として大活躍中である。

〈敬称略〉

【参考資料】『東京佼成ウインドオーケストラ60年史』(東京佼成ウインドオーケストラ・編/新潮社図書編集室刊)

# 楽団プロフィール



## 東京佼成ウインドオーケストラ

Tokyo Kosei Wind Orchestra

1960年(昭和35年)5月、立正佼成会附属の「佼成吹奏楽団」として発足、その後1973年に「東京佼成ウインドオーケストラ」へ改称した日本が世界に誇るプロ吹奏楽団。

吹奏楽オリジナル作品、クラシック編曲作品やポップス、ポビュラーまで幅広いレパートリーの演奏を通じ高い音楽芸術性を創出し、多くの人が楽しめる管楽合奏を展開、各地のコンサートで好評を博している。

また多くのレコーディング、テレビ・ラジオに出演し、吹奏楽文化の向上・普及・発展に尽力している。

2020年に楽団創立60周年を迎え、同年1月より大井剛史が正指揮者、トマス・ザンデルリンクが特別客演指揮者、飯森範親が首席客演指揮者、藤野浩一がポップス・ディレクターに就任。

2022年4月より立正佼成会から独立し、一般社団法人東京佼成ウインドオーケストラとして活動。

# 演奏者名簿

桂冠指揮者 ..... フレデリック・フェネル  
特別客演指揮者 ..... トマス・ザンデルリンク  
ポップス・ディレクター ..... 藤野浩一

正指揮者 ..... 大井剛史  
首席客演指揮者 ..... 飯森範親

**指揮** ..... 大井剛史、飯森範親、藤野浩一、保科洋、山下一史、原田慶太樓  
**司会** ..... 大井剛史

### ソリスト

アルト・サクソフォン ..... 須川展也  
ソプラノ・サクソフォン ..... 田中靖人

**ゲストプレーヤー**  
テナー・サクソфон ..... つづらのあつし  
ピアノ ..... 青柳誠

エレクトリック・ベース ..... ク里斯・シルバースタイン  
ドラム ..... スコット・レイサム

**演奏** ..... 東京佼成ウインドオーケストラ

Piccolo	..... 丸田悠太 (Flute)	Trumpets	..... 奥山泰三、ガルシア安藤真美子、本間千也*、河原史弥、久保義一
Flutes	..... 前田綾子、河野彬、山内豊瑞	Horns	..... 上原宏、堀風翔*、小助川大河、木村淳、中上玲
Oboes	..... 宮村和宏*、桜田昌子	TenorTrombones	..... 今村岳志*、石村源海、青木昂
EnglishHorn	..... 岩川真人	BassTrombone	..... 佐藤敬一朗
Bassoons	..... 福井弘康、垣内紀子	Euphoniums	..... 岩黒綾乃、齋藤充
ContraBassoon	..... 大内洋介	Tubas	..... 近藤陽一、久保和憲
Clarinet in E♭	..... 松生知子	Contrabass	..... 前田芳彰
Clarinets in B♭	..... 小倉清澄、大浦綾子、林裕子、太田友香*、亀居優斗、草野裕輝、徳武敦、野田祐太郎、福井萌	Timpani	..... 篠崎史門
AltoClarinet	..... 澪本千晶	Percussion	..... 秋田孝訓、渡辺壮、和田光世、金井麻理、木下卓巳、久米彩音、定成庸司、二ツ木千由紀
BassClarinet	..... 有馬理絵*		
ContraBassClarinet	..... 原浩介		
AltoSaxophones	..... 田中靖人 (SopranoSaxophone)*、林田祐和	Harp	..... 奥田恭子
TenorSaxophone	..... 神保佳祐 (AltoSaxophone)		
BaritoneSaxophone	..... 柄尾克樹		

(※…演奏委員)

名誉楽團長	..... 庭野光祥	マネージャー	..... 遠藤敏、井小萩浩之
樂團長	..... 林總太郎	ステージマネージャー	..... 今井慎吾、勝川本久
佼成文化協会長	..... 菅野泰正	ライブラリアン	..... 羽田紀子
コンサートマスター	..... 田中靖人	制作	..... 久保慶惠
副コンサートマスター	..... 宮村和宏	パーソナルマネージャー	..... 富田真里那
インスペクター	..... 堀風翔	総務	..... 牧野正純、佐原由起、勝川本久
企画委員	..... 原浩介	広報	..... 遠藤敏、荻沼美帆、今村俊博
		チケットサービス	..... 荻沼美帆
		庶務	..... 出塚和良、小野寺龍一、石川清
		経理	..... 水本孝枝

TKWO オリジナルグッズ好評販売中!

# Original goods

新商品  
登場!

ほかにも多くの商品を  
ご用意しております。  
ご購入・詳細はこち  
ら



## 新オリジナルTシャツ

各1着 2,500円(税込)

会場限定/各1着2,300円(税込)



## オリジナルプラボータオル

1枚 1,700円(税込)

会場限定/1枚1,500円(税込)

国内で生産された今治産タオルに  
「BRAVO!」がプリントされています。  
◎サイズ:34×86cm ◎素材:綿100% 今治産

好評  
発売中!

## 東京佼成 ウインドオーケストラ 60年史



1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、  
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。

支那の音楽、ヨーロッパの音楽、日本の音楽、そしてアフリカ音楽まで、

定価:3,080円(税込/本体2,800円+税)

## 東京佼成ウインドオーケストラ60年史

世界に誇るスーパー・アンサンブル集団のすべてが凝縮  
いま初めて紐解かれる、秘められた驚愕のエピソード

1960年、たった「15名」で始まった吹奏楽団が、  
いかにして世界最高の響きを奏でるようになったのか。

定価:3,080円(税込/本体2,800円+税)

四六判(本文132mm×191mm)/丸背厚表紙/384頁/  
ISBN 978-4-10-910188-2



全国有名書店、および東京佼成ウインドオーケ  
ストラ事務局でお求めいただけます。  
詳細はオフィシャルサイトをご確認ください

Tokyo  
Kosei Wind  
Orchestra

定期演奏会スケジュール

@なかのZERO大ホール

2022-2023

第158回 2022年4月25日(月)19:00開演(18:15開場)

指揮: 大井剛史(正指揮者)

- 希望の彼方へ/P.スパーク
- Sparkling for Wind Orchestra/冷水乃栄流
- 交響曲 第4番/A.リード
- 交響曲「ワインダーク・シー」/J.マッキー

料金(税込):全席指定 ¥5,000/U25割引(25歳以下)¥2,500

好評発売中



©K.Miura

第159回 2022年9月30日(金)19:00開演(18:15開場)

指揮: 飯森範親 (首席客演指揮者)

予定曲目

- 青い水平線(ブルー・ホライズン)/F.チエザリーニ
- ダンス・ムーブメント/P.スパーク
- 交響曲第3番/J.バーンズ

料金(税込):全席指定 ¥5,000/U25割引(25歳以下)¥2,500

1回券発売日:調整中



©山岸伸

第160回 2023年1月28日(土)14:00開演(13:15開場)

指揮: ユベール・スダーン

予定曲目

- 13管楽器のためのセレナーデOp.7/R.シュトラウス
- アルプスの詩/F.チエザリーニ
- ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら/R.シュトラウス(M.ハイイングレー編)
- 歌劇「ばらの騎士」組曲/R.シュトラウス(酒井格編)

料金(税込):全席指定 ¥6,000/U25割引(25歳以下)¥3,000

1回券 発売日:調整中



©N. Ikegami

3回  
セット券

定期演奏会(全3回:第158回・第159回・第160回)  
を同じお席でお得にお聴きいただけます。

全席指定:13,000円

U25割引:6,000円

好評発売中